

第 1 号議案 2024年度事業報告

各公益事業ごとの事業報告詳細（千円以下を切り捨て表示しています）

◎「公募助成金」報告

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事業でどこからも援助がない団体などを一般公募し事業助成する。今年度は9月～11月29日に応募を受け付けて1月30日に選考委員会を開き、下記14団体に総額280万円の贈呈を決定。

公益事業1「公募福祉助成金」3団体に90万円（8P参照）

手話エンターテイメント発信団oioi（大阪市東淀川区）▽しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西（大阪市北区）▽どりいむスイッチ（広島県福山市）

* 高齢者福祉特別枠助成2団体に20万円（6P参照）

希望の居場所（大阪市都島区）▽寝屋川あいの会（大阪府寝屋川市）

* 児童福祉特別枠助成5団体に100万円（8P参照）

おてらおやつクラブ（奈良県田原本町）▽オルケスタ（大阪府河内長野市）
▽くじら（愛媛県八幡浜市）▽白浜レスキューネットワーク（和歌山県白浜町）▽はるるとダッシュの紙芝居（京都市北区）

公益事業2「シンシア基金公募助成」2団体に20万円（12P参照）

日本介助犬協会（愛知県長久手市）▽兵庫介助犬協会（兵庫県西宮市）

公益事業4「世界子ども救援金公募助成」2団体に50万円（14P参照）

ゴーシェア（大阪府高槻市）▽Piece of Syria（大阪市住吉区）

公益事業1 国内外の福祉に関する事業

一般寄付金は3月末現在で1,190件4,908万円（前年1,227件3,700万円）が寄せられた。

このうち歳末の「毎日チャリティー美術フェア」の売上金は、フェア終了後に個別に販売した分を合わせて計2,557万円。義援金1,012件1,334万円との合計は3,892万円（前年960件3,072万円、前年比約820万円増）となった。

一方、指定正味財産では「小児がん征圧募金」に92件114万円（前年103件645万円）が寄せられた。これらの資金をもとに次の事業を行った。

児童福祉に関する事業

主催事業

◎母の日・父の日募金キャンペーン（支払助成金より45万円を支出）

親を亡くしたり、一緒に暮らせない子どもたちを支援するキャンペーン。5月1日付と6月8日付朝刊で募金を呼びかけ、あしなが育英会に21万円、C V V（社会的養護の当事者支援団体）、子どもセンターぬつく、チャイルド・リソース・センターに各8万円の合計45万円を9月に贈呈した。

添付資料－1

◎「施設のこどもに卒業祝い金を贈呈」（支払負担金より123万円を支出）

大阪府下の児童福祉施設で暮らす高校生などを対象に、社会人としての心構えなどを伝える研修会を2024年7月から計14回行った。大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部が主催し、本団後援。2月16日の閉講式では、本団の主催事業として、高校などを卒業する全員（123人）に激励の意味を込めて1人1万円の祝い金を贈呈した。研修会は1975年から、祝い金贈呈は1962年から。

添付資料－2

共催分担金事業

◎そよかぜ杯ボウリング大会（支払負担金より60万円を支出）

6月23日、近畿各地の交通遺児や病気・災害遺児らとその家族などの約100人が大阪市の心斎橋サンボウルでボウリングを楽しみ交流した。大阪交通遺児を励ます会と共催

添付資料－3

◎小学6年生ハチ北林間ホーム（支払負担金より10万円を支出）

8月7～9日、大阪市管轄の児童福祉施設で暮らす小学6年生ら47人を兵庫県香美町のハチ北高原に招待した。大阪市児童福祉施設連盟と共催。開催経費のうち10万円を分担助成した。

◎「ゆうゆうキャンプ」（支払負担金より32万円を支出）

11月30～12月1日、被虐待児童らに他者とのかわり方を学んでもらうための1泊2日のキャンプを、奈良県吉野町の吉野宮滝野外学校で実施。大阪府青少年活動財団と共催。開催経費32万円を分担助成した。1997年～から。

◎「第56回新春こども大会」（支払負担金より5万円を支出）

1月26日、大阪市が管轄する児童福祉施設の子どもたちが、冬休みに練習した踊りや演劇などを大阪市港区民センターで発表した。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。開催経費5万円を分担助成した。

◎「第37回駅伝・ロードレース大会」（支払負担金より5万円を支出）

2月16日、大阪市が管轄する児童福祉施設の小・中学生約200人が参加する駅伝・ロードレース大会を、大阪府吹田市の大阪市立弘済小中学校グラウンドとそ

の周辺で実施。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

児童福祉特定団体助成・支援事業

◎「児童福祉特定団体助成」 (支払助成金より50万円を支出)

2023年2月に寄託のあった寄付金1,500万円を基に、2032年度までの10年間、「児童福祉特定団体助成」(年間50万円)と「公募福祉助成金『児童福祉特別枠』」(年間100万円)設け事業助成する。今年度の「児童福祉特定団体助成」はヤングケアラー支援を行う当事者団体「ふうせんの会」へ50万円を贈呈した。(児童福祉特別枠は8P「公募福祉助成金」を参照)

*** 琵琶湖セツルの家**＝7月1日～8月31日、滋賀県大津市の琵琶湖畔に宿泊施設を開設し、保育所、児童館、子どもの家などの利用者に開放した。大阪市地域福祉施設協議会の主催。本団が単独で助成後援した。(支払助成金より8万円を支出)

*** 母と子の一泊旅行**＝7月6～7日、大阪府下の母子寮の親子40人を、和歌山県の白浜温泉と白浜アドベンチャーワールドへのバス旅行に招待した。大阪府民間母子生活支援施設連絡協議会の主催。本団は単独で助成後援した。(支払助成金より28万円を支出) 添付資料－4

*** 里親ふれあいキャンプ**＝8月13～15日、小学1年生以上の里子を対象に、兵庫県香美町の尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」でキャンプを行った。毎日新聞社とともに愛の手運動(里親さがし運動)を展開する家庭養護促進協会が主催。本団が単独で助成後援。(支払助成金より18万円を支出) 添付資料－5

*** 第71回児童福祉施設スポーツ大会**＝8月21～22日、名古屋市管轄の児童養護施設で暮らす児童・生徒による野球、ソフトボールの大会を大高緑地公園野球場で開催した。名古屋市、同市社会的養育施設協議会が主催。費用の一部を助成後援した。(支払助成金より1万円を支出)

*** 自立支援プログラム いずみサロン**＝11月～2月、名古屋市内の児童養護施設で暮らす中学3年生以上を対象に、自立支援のための調理実習や職業体験実習、学習会などを実施。就労支援事業サポートいずみが主催。費用の一部を助成後援した。2011年から。(支払助成金より39万円) 添付資料－6

*** 児童福祉施設に絵を贈る運動**＝1月、「毎日チャリティー美術フェア」に寄せられた作品から絵画6点を、子どもたちの情操教育に役立ててもらうため愛知・岐阜・三重県内の児童養護施設に贈った。

医療福祉に関する事業

◎「小児がん征圧キャンペーン」 (支払助成金より840万円を支出)

1996年から毎日新聞社と行っている「生きる－小児がん征圧キャンペーン」と

連動した「小児がん征圧募金」には、3月末までに92件114万円（前年103件645万円）が寄せられた。3月に贈呈式を開き、次の12団体に各70万円ずつ計840万円を贈った。

添付資料－7

1. 日本クリニックラウン協会（大阪市北区）
2. 京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ
「にこにこトマト」（京都市左京区）
3. 京都ファミリーハウス（京都市伏見区）
4. あいち骨髄バンクを支援する会（名古屋市千種区）
5. 守口ぶどうのいえ（大阪府守口市）
6. TSURUMIこどもホスピス（大阪市鶴見区）
7. しぶたね（大阪府大東市）
8. ふくふくばるーん（名古屋市中区）
9. 名古屋小児がん基金（同）
10. 三重大学病院小児科父母の会・ひだまり（三重県鈴鹿市）
11. 京都・がんと生殖医療ネットワーク（京都市左京区）
12. 未来ISSEY（香川県丸亀市）

高齢者福祉に関する事業

◎配食サービス車贈呈事業（支払助成金より215万円を支出→0円）

独居老人や障害者のお宅に食事を届ける配食サービスを行っている福祉団体やボランティアグループを対象に一般公募し、特別仕様の配食サービス車を贈呈する予定だったが、ダイハツの認証不正問題の影響でベース車両の納車に時間がかかることなどから今年度は中止となった。

◎「公募福祉助成金・高齢者福祉特別枠」（支払助成金より20万円を支出）

2021年度に寄託のあった遺贈金を基に2026年度までの5年間、公募福祉助成金に「高齢者福祉特別枠」を設け、一般公募による事業助成をする。9月～11月29日に応募を受け付け、1月30日に選考委員会を開いて下記2団体に総額20万円を助成した。（8P「公募福祉助成金」を参照）

1. 希望の居場所（大阪市都島区）
2. 寝屋川あいの会（大阪府寝屋川市）

心身障害者福祉に関する事業

共催分担金事業

◎第37回専門点訳・音訳講習会（支払負担金より100万円を支出）

専門書の点訳、音訳の技術を修得するための講習会。受講後は点訳・音訳ボランティアとして活躍してもらう。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

専門点訳講習会

・「英語コース」 5月16、23、30日、6月13、27日、7月11、25日 全7回、
17人

・「はじめての理数系教材点訳コース」 8月24日、9月7、14日 全3回、
23人

専門音訳講習会

・「小説の読み方コース」 6月21、26日の講習を2回、合計30人

・「図表コース」 7月10、31日、8月7、28日、9月4、11日 全6回、
16人

・電子書籍「テキストデータ作成コース」 9月18、25日、全2回、9人
10月18、25日、全2回、10人

◎第27回視覚障害者ICT・サポートボランティア講習会

(支払負担金より30万円を支出)

視覚障害者の情報環境を支えるICT（インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー）機器を利用する視覚障害者に、操作方法などを教える指導者養成のための講習会。受講者を公募しiPhoneの機能などについて学ぶ。日本ライトハウス情報文化センターと共催。（1997年～）

- ・① 5月11日 開講式、iPhone講習会、8人
- ・② 5月25日 サピエ活用講習会、4人
- ・③ 6月29日 エクストラ センスプレーヤー体験会、9人
- ・④ 7月27日 アイナビ体験会、19人
- ・⑤ 9月28日 インターネット活用講習会、9人
- ・⑥ 10月26日 点字ディスプレイ相談会、2人
- ・⑦ 11月30日 iPhone活用講習会、7人
- ・⑧ 12月21日 インターネット活用講習会、2人
- ・⑨ 2025年1月18日 NTTドコモiPhone体験会、16人
- ・⑩ 1月25日 オンライン交流会（Zoom）、17人

◎「声の点字毎日」の発行

(支払負担金より5万円を支出)

全国の国立ハンセン病療養所8カ所で生活している人たちに点字毎日の「声の点字毎日デイジー版」（月2回発行）を寄贈する事業。東京・西部社会事業団とともに費用の一部を5万円ずつ分担した。

◎第92回全国盲学校弁論大会

(支払負担金より20万円を支出)

10月4日、公立学校共済組合宿泊所ホテルレイクビュー水戸で開かれた。毎日新聞社点字毎日、全国盲学校長会と共催。本団は2002年度から共催に加わった。東京社会事業団も20万円、西部社会事業団は10万円を分担した。（1928年～）

添付資料－8

心身障害者特定団体助成・後援事業

* 第59回全大阪ろう社会人軟式野球秋季大会＝7月7、21、8月4日、大阪府久宝寺緑地公園軟式野球場などで開催。本団が助成後援した。（支払助成金より

盾代 1 万円を支出)

* 第37回全愛知ろう社会人軟式野球秋季大会＝7月28、8月4日、愛知県豊川市のかわしんビクトリースタジアムで開催。本団が助成後援した。(材料費より盾代 5 千円を支出)

* 第49回わたぼうし音楽祭＝8月4日、奈良県大和郡山市のDMG MORIやまと郡山城ホール大ホールで開催。(支払助成金より20万円を支出。東京社会事業団は10万円、西部社会事業団も5万円)

添付資料－9

* 第50回愛知心理療育キャンプ＝8月17、18日、9月15日、10月20、11月17日などに愛知県刈谷市の北部生涯学習センター・洲原ロッジ等で開催。助成後援した。(支払助成金より3万円を支出)

* 第49回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会＝10月4～6日、大阪府八尾市の久宝寺緑地公園軟式野球場などで開催。助成後援した。(材料費より盾代 9 千900円を支出)

* 名古屋市視覚障害者協会の機関紙「のぞみ」第45号発行＝1月に発行。製作費用を助成した。(支払助成金より3万円を支出)

その他の社会福祉事業団体の事業助成

◎「公募福祉助成金」 (支払助成金より210万円を支出)

国内外で福祉活動に取り組む団体や、先駆的事業でどこからも援助がない団体などを一般公募し事業助成する。公募福祉助成金の中には期間限定の高齢者福祉特別枠、児童福祉特別枠を設けている。9月～11月29日に応募を受け付けて1月30日に選考委員会を開き、下記10団体に総額210万円を助成した。

「公募福祉助成金」3団体に90万円

1. 手話エンターテイメント発信団 o i o i (大阪市東淀川区)
2. しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 (大阪市北区)
3. どりいむスイッチ (広島県福山市)

*「児童福祉特別枠」5団体に100万円

1. おてらおやつクラブ (奈良県田原本町)
2. オルケスタ (大阪府河内長野市)
3. くじら (愛媛県八幡浜市)
4. 白浜レスキューネットワーク (和歌山県白浜町)
5. はるるとダッシュの紙芝居 (京都市北区)

*「高齢者福祉特別枠」2団体に20万円

1. 希望の居場所 (大阪市都島区)
2. 寝屋川あいの会 (大阪府寝屋川市)

その他目的を達成するに必要な事業

◎毎日社会福祉顕彰

(支払負担金より122万円を支出)

本団創立60周年記念事業として始まり54回目。毎日新聞紙上等で公募して5月末に締め切り、次の3団体が選ばれた。

添付資料－10

◇特定非営利活動法人JFCネットワーク（鈴木雅子理事長＝東京都新宿区）

1994年設立で、日本人とフィリピン人の両親から生まれた子どもたちの人権を支援する活動をしている。

◇酒井勇幸氏（社会福祉法人いなりやま福祉会 常務理事＝長野県千曲市）

自身の視覚障害の経験をもとに1981年に社会福祉施設を立ち上げ、その後さまざまな施設や事業の整備に取り組んだ。現在では、就労支援事業所2カ所、生活介護事業所1カ所、グループホーム4カ所などを運営し、地方福祉のモデルケースとして知られるようになった。

◇社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房（山下完和）施設長＝滋賀県甲賀市）

やまなみ工房は社会福祉法人やまなみ会が運営するアート工房。1986年、甲賀市に共同作業所として開設され、知的障がいや精神疾患を抱える人々の自由な発想による独創的な芸術作品が、国内外で高い評価を得ている。

◎「歳末たすけあい運動」

(支払助成金より70万円を支出)

「義援金」募集や「毎日チャリティー美術フェア」を実施。義援金は1,012件1,334万円（前年960件1,343万円）で前年比9万円の減。今年度から名称を改めた「毎日チャリティー美術フェア」は、会場も毎日新聞大阪本社地下1FうめだMホールに移し12月20日～22日に開催した。期間中の売り上げは2,550万円（同1,397万円）、前年比1,153万円の増となった。以上をもとに歳末慰問金として計70万円を次の7団体に配分した。

大阪子どもの貧困アクショングループCPA0▽大阪更生保護施設連盟▽大阪家庭少年友の会▽こどもの里▽エスペランス四日市（児童養護施設・三重県四日市市）▽日本児童育成園（同・岐阜市）▽なかよしこよし（同・愛知県安城市）。

残額は今年度以降の公益事業1（国内外の福祉に関する事業）の資金として活用する。

◎「指定寄付金事業」

(支払助成金より116万円を支出)

寄付金の中で助成先が特定された寄付金。「愛の手運動に」「能登豪雨災害救援金」など39件116万円が寄せられた。116万円を支出した。

◎機関紙「そよかぜ」の発行

(印刷製本費より14万円を支出)

「そよかぜ」57号を製作し、6月1日に1,000部を発行。寄付者や関係機関・団体等に送付した。

その他の名義後援事業

とき	案件名	ところ
3月31、4月7日	「第61回全大阪ろう社会人軟式野球春季大会」	大阪府 営久宝寺緑地軟式野球場（八尾市）、寝屋川公園第1野球場（寝屋川市）
4月13、27、28日、5月11、19日	「令和6年度愛知県障害者スポーツ大会」	名古屋市緑区の名古屋グランドボウル、豊田市運動公園陸上競技場など
4月14日	「第44回愛知県聴覚障害者体育大会」	北名古屋市健康ドーム他（愛知県北名古屋市熊之庄御櫛60）
4月17日～11月21日	「第21回名古屋市障害者スポーツ大会」	名古屋市の小幡緑地公園球技場など
4月17日～19日	「バリアフリー2024」ー第30回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展ー	インテックス大阪（大阪市住之江区南港1）
5月～8月2日（募集期間）	「第61回点字毎日文化賞」	毎日新聞東京本社での表彰式を予定
7月7日	「第40回愛知県聴覚障害者大会」	愛三文化会館（大府市勤労文化会館）大府市明成町1
7月21日～2025年2月16日	2024年度「児童養護施設等入所児童及び里親委託児童に対する自立生活技術講習会（ソーシャル・スキル・トレーニング）」事業	シェラトン都ホテル大阪（大阪市天王寺区）
8月～2026年3月	関西いのちの電話 第60期「電話相談ボランティア養成講座」	大阪城南教会会議室（大阪市天王寺区東上町8-30など）
8月5日～9日	「第41回土と水と緑の学校」	和歌山県新宮市の高田地区一帯
9月17日～10月15日	「ハルカスコロコロ大作戦！」	あべのハルカス近鉄本店タワー館5階（展示）、ウイング館8階街ステーション
10月12、13、14日	「第42回スポーツフェスタ2024大阪」	ヤンマースタジアム長居、大阪市長居障がい者スポーツセンター（大阪市東住吉区）など
10月20日	「ファインエリアフェスティバル2024」	堺市南区城山台5の府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ大阪）など
10月22日	「第74回施設従事者激励会」	アートホテル大阪ベイタワー（大阪市港区弁天1）
10月27日	「第52回全大阪ろうあ者文化祭」	大阪市長居障がい者スポーツセンター（大阪市長居公園1）
11月16日	「第58回肢体不自由児者を支援するチャリティバザー」	八尾市山城町1、第1公園（買物公園）
11月23日	「2024年度 医療社会事業従事者講習会」	大阪市社会福祉研修・情報センター会議室西（大阪市西成区出城2）
11月28日	「令和6年度大阪府社会福祉大会」	大阪国際交流センター・大ホール（大阪市天王寺区上本町8）
11月28日	「第22回大阪救護施設合同文化事業」	「シティプラザ大阪」2階大宴会場 SYUN-

		旬-(大阪市中央区本町橋2)
12月4～6日	「素のままが、ええやん！♪」	豊中市立文化芸術センター 大ホール、多目的室
12月6～13日	「第44回『障がいのある子どもに学ぶ』図工展」	大阪市教育会館 アネックスパル法円坂東館(大阪市中央区法円坂1)
12月8日	「第63回愛知県身体障害者福祉大会」	田原文化会館(田原市田原町汐見5)
12月15日	「第69回名古屋市身体障害者福祉大会」	名古屋市中区役所ホール(名古屋市中区栄4)
2025年1月23日	「第72回愛知県社会福祉大会」	ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館:名古屋市中区二の丸1番号)
1月29～2月2日	「第59回名古屋市障害者作品展示会」	市民ギャラリー矢田 第1～7展示室(名古屋市東区大幸南1)
2月14日～15日	「第29回全国地域福祉施設研修会」	大阪キリスト教短期大学(大阪市阿倍野区丸山通1)
3月2日	「第43回耳の日記念 聴覚障害者と県民のつどい」	刈谷市総合文化センター(愛知県刈谷市若松町2)
3月8日	令和6年度 合同求人説明会「"福祉のお仕事"就職フェア in OSAKA～ふくしに会う・つながるマルシェ～」	OMM2階(大阪市中央区大手前1)

◎シンシア基金

身体障害者をサポートする介助犬への理解を深め、育成や研究活動に役立てるため、阪神支局が1998年から始めたキャンペーンと連動して「シンシア基金」を設立し募金を呼びかけた。3月末日までに寄せられたのは20件87万円（前年28件94万円）となった。

＊「第26回身体障害者補助犬シンポジウム」＝身体障害者補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）の社会的認知を促進するため、宝塚市、同市教委、NPO兵庫介助犬協会で作る実行委員会が宝塚市のソリオ宝塚メインプラザで11月10日に開催した。
（支払助成金より8万円を支出）

＊身体障害者補助犬ステッカー1,200枚を贈呈＝「補助犬同伴可」のステッカー（「ペット不可」の表記が有るものと無いものの2種類）を、日本補助犬情報センターや日本介助犬協会、宝塚市などを通じ全国の小売店や飲食店、宿泊施設などに配布している。特定非営利活動法人日本補助犬情報センター（横浜市港北区）から「補助犬同伴可（ペット不可）ステッカー」1,200枚の現物助成申請があり、在庫から1,200枚を送付した。

＊身体障害者補助犬ステッカー1万枚を作成＝上記贈呈に伴い、本団在庫のステッカーは「ペット不可」の表記が有るもの290枚、無いもの2,229枚の合計2,519枚となったため、新たに表記有り7,000枚、無し3,000枚の計1万枚を印刷した。（印刷製本費より53万円を支出）

◎シンシア基金公募助成**（支払助成金より20万円を支出）**

身体障害者補助犬の育成や支援に関わる団体などに公募助成する。9月～11月29日に応募を受け付け、1月30日に選考委員会を開いて下記2団体に20万円を助成した。

1. 日本介助犬協会（愛知県長久手市）
2. 兵庫介助犬協会（兵庫県西宮市）

その他の名義後援事業

◇「介助犬フェスタ2024」＝5月18日、愛知県長久手市の愛・地球博記念公園地球市民センターで実施した。日本介助犬協会の主催。

◇「盲導犬育成支援のための～第42回日本ライトハウスチャリティーコンサート」＝6月16日、大阪市北区のザ・シンフォニーホールで開いた。日本ライトハウスの主催。

公益事業 3

災害救助に関する事業

◎「災害救援基金事業」

* 令和 6 年能登半島地震救援金 (支払助成金より2,617万円を支出)

2024年1月1日に石川県能登半島を震源とする地震が発生。1月5日に「能登半島地震救援金」の受け付けを始めた。24年4月から25年3月末までに大阪社会事業団に寄せられた救援金は300件1,454万円（24年1月からの累計は1,942件5,256万円）。4月24日に前年度からの繰越金も含めて第3次分1,500万円と第96回選抜高校野球大会での募金217万円、9月6日に第4次分500万円、2025年2月21日にも第5次分400万円を石川県に贈呈した。これまでの贈呈総額は4,617万円となる。

* 東日本大震災救援金 (支払助成金より26万円を支出)

3月末までに10件20万円（前年13件32万円）が寄せられた（総合計8,014件4億8,646万円）。3月に第23次分として、前年度からの繰越金と併せて26万円を、宮城県に贈呈した。贈呈総額は4億7,537万円となる。

* 毎日希望奨学金 (支払助成金より4,176万円を支出)

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設）は14年目を迎えた。本団には3月末日までに372件925万円（前年462件1,562万円）が寄せられた。

3月12日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載するとともに、被災地の高校や大学などに直接照会をかけた。50人の募集枠に対して47人が応募。5月17日、有識者らによる選考委員会が開かれ、全会一致で47人に支給が決定。奨学生数は継続者とあわせて174人（高校生73人、短大・大学・大学院生91人、専修学校生10人）となり、4,176万円を支給した。これまでの奨学金支給総額は6億6,408万円となる。

・ 4月25日、127人（4、5、6月分）	762万円
・ 6月25日、47人（4、5、6月分）	282万円
・ 7月25日、174人（7、8、9月分）	1,044万円
・ 10月25日、174人（10、11、12月分）	1,044万円
・ 2025年1月27日、174人（1、2、3月分）	1,044万円
合計4,176万円を支給	

公益事業 4

国際協力に関する事業

◎海外難民救援（世界子ども救援）キャンペーン（委託費より約112万円を支出）

国際児童年（1979年）に毎日新聞社との共催で「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタート。記者を海外に派遣し、苦境にある人々の姿を報じるとともに「世界子ども救援金」への協力を呼びかけている。

今年度は毎日新聞大阪本社の記者とカメラマンが10月11日から約1カ月間にわたりアフリカ最大の難民受け入れ国ウガンダを取材。11月20日から12月2日まで記事を随時掲載し、海外難民救援金を募った。また、今年度より名称を「海外難民救援キャンペーン」に改称し、東京本社、西部本社と同一にした。

「海外難民救援金（旧：世界子ども救援金）」には3月末までに341件555万円（前年256件414万円）が寄せられた。広く一般から申請を受け付ける「公募助成」と、今回のキャンペーンで紙面掲載された地域や団体を対象とした「取材地助成」、これまでの取材地で引き続き援助が必要と判断された「継続助成」（今年度はパレスチナ支援団体への助成）の三つの支援を行う。いずれも活動内容や実績などから選考している。

◎「公募助成」

（支払助成金より50万円を支出）

海外での支援活動を行う民間団体やそれに準じる団体に公募助成する。

9月～11月29日の期間、応募を受け付け、1月30日に選考委員会を開き下記団体に総額50万円を助成した。

- | | |
|------------------------|------|
| 1. ゴーシェア（大阪府高槻市） | 25万円 |
| 2. Piece of Syria（大阪市） | 25万円 |

◎「取材地助成」

（支払助成金より150万円を支出）

- | | |
|-----------------------|------|
| 1. テラ・ルネッサンス | 60万円 |
| 2. 国際連合世界食糧計画WFP協会 | 50万円 |
| 3. 難民を助ける会（AAR Japan） | 40万円 |

◎「パレスチナ難民継続助成」

（支払助成金より30万円を支出）

- | | |
|--------------|------|
| 1. 国境なき医師団日本 | 30万円 |
|--------------|------|

2024年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2025年5月

公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団
以上